

図書館だより

1月号 (令和6年度)

川之石高校図書委員会

令和7年も、はや一か月が過ぎようとしています。3年次生は間もなく自宅学習に入りますが、最後の試験も終わりほっとしていることと思います。卒業までに、1冊でも何か本を読んでもみましょう。間もなく新刊本も入るので、川高図書館にも来てみてください。



〔新任の先生より〕

『大地の花束』(渡邊 明弘 著)

農業科 秋山 宏幸 先生

この本は、10年前、私が、中予の農業高校で担任をさせてもらっていた時のクラスのお父さんが書かれた本になります。

このお父さんは、朝、元気に高校へ送り出した15歳の大切な息子を自転車とトラックとの交通事故で亡くされました。子供たちが安全な生活を送れるような社会にし、子供たちの命を守りたいという気持ちで、交通事故が起こるとその後どうなるのかを正直に書かれています。皆さんにもいつ起こるかわからないこの問題を少しでも考えていただきたいので1月号としてはどうかと思いましたが紹介しました。

2014年12月1日は、クラスで一番の成績、友達も多く、写真が大好きで優しく人に接することができる大地くんが、期末テストが終わり自転車で下校途中にトラック衝突、頭を強打し亡くなった日になります。私にとっては、10年という時間は経ちましたが、12月になると昨日のように思い出されます。県内の高校生に自転車のヘルメットが義務化された事故の一つで、頭を守ることで、命が救われる、救われたという事故は、この後も続いています。

3年生は、現在、運転免許取得のため、教習所に通っている生徒も多くいると思いますが、車はとても便利なものですが、一つ間違えば、人の命を奪うもので、自分と家族の生活を一瞬に変えてしまうものにもなります。安全運転を忘れないようにしてください。

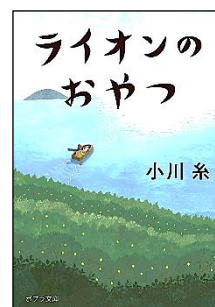


〔図書紹介〕

川高図書館に新しい本が入ります。ぜひ読んでみてください。

『ライオンのおやつ』(小川 糸 著)

人生の最後に食べたいおやつは何ですか——若くして余命を告げられた主人公の雫は、瀬戸内の島のホスピスで残りの日々を過ごすことを決め、穏やかな景色のなか、本当にしたかったことを考える。食べて、生きて、この世から旅立つ。すべての人にいつか訪れることをあたたかく描き出す、今が愛おしくなる物語。



『あの時こうしなければ……本当に危ない闇バイトの話』(廣末 登・芳賀 恒人 著)



今問題になっている「闇バイト」。名前こそ「バイト」ですが、れっきとした犯罪です。そして、知らぬ間に犯罪行為をさせられる「闇バイト」が、若者の間に広がっています。一度、手を染めたら簡単にはやめられない恐怖のバイトに、どうしたら誘われずに済むのか。この本はマンガで事例を紹介しながら、闇組織の手口を解説しています。

犯罪に加担することになってしまわないよう、この本を読んで気を付けましょう。

『胸はしる 更級日記』

『新編 人生はあはれなり…紫式部日記』(小迎 裕美子 著)

古典の授業でおなじみの『更級日記』。また、『源氏物語』で有名な作者の『紫式部日記』。この二つの作品を人気イラストレーター小迎裕美子さんがユーモアたっぷりに描いています。図書館にはすでに『新編 本日もいとをかし!! 枕草子』があります。原作は読むのは少し難しいかもしれませんが、マンガを通して古典の世界に触れてみませんか？



〔12月 月間図書貸出冊数〕

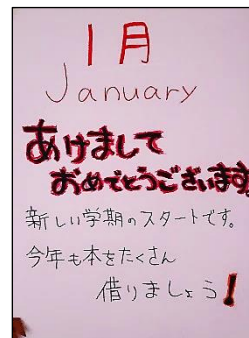
〈クラス別〉

12月1日～12月20日

1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	合計
45冊	40冊	5冊	9冊	6冊	2冊	4冊	1冊	112冊

〈個人別〉

- 1位 5冊 濱本 詩音 (1-1)
- 2位 4冊 成田 春陽 (1-1)
- 3位 3冊 大久保 結陽 (1-2)
- 3冊 西村 晴 (1-2)
- 3冊 清水 英磨 (3-2)



読書、なかんずく小説を読む喜びは、もうひとつの人生を経験することができる、という点にある。

山本周五郎 (小説家/1903-1967)